

財団法人 8020 推進財団
平成 20 年度 歯科保健活動事業助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：後期高齢者歯科健康診査事業

2. 申請者名：千葉県歯科医師会 会長 岸田 隆

3. 実施組織：千葉県歯科医師会地域保健医療委員会・千葉県歯科衛生士会・千葉県社会福祉協議会・千葉県介護保険関係団体協議会・その他

4. 事業の概要：

自立度の高い高齢者、比較的自立度の高い高齢者に対して、歯科的項目および一般的な挙動を検査し、その情報について分析を加える。

また、その過程や結果についてとりまとめて、県内の一般病院に示し、この情報の活用について周知し、かつ在宅療養における退院支援を歯科から行うための協力体制を構築する事業である。

5. 事業の内容：

(1) 実施する健診の項目を策定するために、千葉県介護保険関係団体や四師会（医師会、薬剤師会、看護協会）へ働きかけ、会議を開催した。

具体的内容の策定について、千葉県歯科医師会地域保健医療委員会において各団体の意見を聴取して調査票 2 種類並びに健診票を作製した。

(2) 自立度の高い高齢者（概ね 75 歳前後の方）の受診勧奨を行うため千葉県社会福祉協議会の全面的支援のもと、各市町村社会福祉協議会の協力により数箇所を実施することが叶った。

(3) 昨年度の入退院の実績が無かった事を踏まえ、看護協会の助言のもと、調査票と健診票の要約を行い、健康手帳等へ貼付できる様式への検討を行った。

(4) 健診を実施して、情報の利用について受診者より了解を得たものについて蓄積を開始した。

(5) 高齢者の入退院については、目論見通りといかなかった為、四街道徳洲会病院に協力依頼して、本事業の健診票の充足度について現場からの見解として承った。（個人情報保護法及び徳洲会病院における倫理審査未了の為、添付資料の内容についてのみ報告する。）

(6) 5-2. 健診結果概況：

主だった項目について、以下示す。分析については、順次東京歯科大学と連携して行う予定であるが、次年度も同様の事業実施について、市町村社会福祉協議会から要望があるので、さらに合算して分析する。

(1) 受診者総数 353 名（要介護・要支援者 0 名、健常者 353 名）

(2) 機能歯数は 2 8 歯が最頻であり、比較的よく機能が確保された集団であることを示唆する。

(3) 口腔の衛生状態は、90%以上の方では良好であったといえる。

(4) 反復唾液嚥下テストでは、6 割程度の方に機能低下が認められ、口渇感の自覚は 4 割程度であり、機能低下を自覚していなかった方が 2 割程度認められた。

(5) オーラルディアドキネシスについては、4.0~7.0 回/秒の方が多く、極端に機能が落ちている状況ではなかった。

(6) 義歯の使用についてはかなり多くの方が「あり」であった。

(7) 健常の受診高齢者のうち、有病である割合は、78%であった。そのうち、高血圧をわずらっている方が大多数であった。

(8) 食生活になんらかの支障がある場合がかなり認められている。

6. 実施後の評価：

結果分析により、高齢者の有病率が高いこと、また、機能低下の自覚が少ないことより、入退院の事態に陥った際に、ADL の低下を招く可能性が高いことも示唆される。

地域と病院との医療連携パス構築において、本事業の結果が反映されるべく、千葉県・千葉県医師会・千葉県薬剤師会・千葉県看護協会・千葉県介護保険関係団体により具体的な働きかけが可能となった。